



自由民主党・
岩沼市民会議

菊地

忍



子どもの未来を創るまちづくり施策

問 保育所待機児童の解消に向け、東保育所の定員数を増やすなど、これまでもさまざまな対策を実施してきたが、現在の状況と今後の見通しを伺う。

こども福祉課長 現時点における待機児童数は8人となっており、今後の見通しについては、4年度当初において3人の見込みとなっております。

保育所待機児童ゼロ政策

問 思い切って「岩沼市待機児童ゼロ政策」を考えてみてはどうか。全国の待機児童マップを見ると都心部ほど待機児童が多いことが分かる。このことを千載一遇のチャンスと捉え、都心部から安心して子育てができる岩沼に移住する施策を打ち出してはどうか。

市長 ゼロを目標にしています。が、やはり数人出てくるというのが実態です。引き続きゼロを目指していきます。

問 情報教育はこれからの時代を担う子どもたちにとって大変重要で必要な教育と考える。小中学校

情報教育における新たな取り組みの一つとして「担当の指導主事を配置する」とあるが、詳細を伺う。

学校教育課長 現在、人選を宮城県教育委員会と調整しているところですが、その役割としてはICT活用に係る相談支援業務を中心に、さらに学校現場の情報教育の推進をバックアップしていきたいと考えています。

問 人数は何名くらいを考えているのか。

学校教育課長 1名の派遣依頼をしています。

にぎわいと交流のあるまちづくり
施策

問 公共交通環境の利便性向上とまちの魅力発信をテーマに、AIを活用したデマンド型の新しい乗り物「岩沼AI運行バス」の実証運行が現在行われているが、現在までの利用状況を伺う。

生活環境課長 年齢の割合になりますが、高い順に80代以上が21・7%、20代が16・7%、50代が

キャッシュレスタウンを

15・0%と、若い人からシルバード世代の人まで幅広く利用されているようです。

問 AI運行バスをきっかけとした、岩沼市の経済活性化につながる取り組みを考えているのか伺う。

市民経済部長 AI運行バスにしましては実証実験をしている段階ということもありますので、まだそこまでは考えていません。まずは域内交通の充実、そこを重点的に考えていき、その上で今回の取り組みをきっかけとして経済活性化に何が活用できるか、研究していきたいと考えています。

問 リーサス(RESASTM)で岩沼市の地域循環率を調べてみると88・8%。年間で127億円が地域外へ流出していることが分かった。

市内でお金が循環する仕組みを作る取り組みとして、バス運賃の支払いにオンライン決済の導入を検討し、これをきっかけに市内各所・各商店を含むさまざまな場所でオンライン決済の導入を進め、「岩沼キャッシュレスタウン」の確立を考えてはどうか見解を伺う。

市民経済部長 バス運賃のオンラ

イン決済あるいはキャッシュレス決済については、現在岩沼市民バスの運行計画の見直しを行っています。その中でもそういった意見がいただいておりますので、検討が必要な部分と捉えています。岩沼市としましては、キャッシュレス決済の導入を検討している事業者がいれば、個々にサポートしていきたいと考えています。

RESAS II 産業構造や人口動態、人の流れ等のビッグデータをマップやグラフで分かりやすく表示できるシステム

◎その他の会派代表質問

・大切な命と暮らしを守るまちづくり施策

・健康で笑顔あふれるまちづくり施策

会派所属議員

佐藤剛太、菊地忍、酒井信幸、寒風澤敦司、大村晃一